

令和元年度モニタリング評価実施による改善のための対応方針

施設名：大阪府立弥生文化博物館

評価項目	評価基準	評価委員の指摘・提言等	改善のための対応方針	次年度以降の事業計画等への反映内容
I－（１）施設の設置目的および管理運営方針	◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか	A 評価でも問題はないが、S 評価に上げることも検討すること。	計画を上回る S 評価と読み取れる評価が項目の半数に満たないことから A 評価のままとする。	
I－（３）利用者の増加を図るための具体的手法・効果	◇利用者増加のための工夫がなされているか ○学校教育との連携 ・出前授業（小・中学校）の実施 60 回 ◇利用者数 ○入館者数及び館外利用者数 ・総入館者 50,000 人	評価委員会での議論を踏まえ、施設所管課でよく吟味したうえで A 評価と B 評価のどちらが適当かを決定すること。出前事業の実施回数は評価基準を大きく超えている一方で、入館者数については評価基準に満たない可能性がある。従来から実施してきた事業の継続を前提とはしないなど、経営資源の効果的配分を念頭に、事業の見直しをすべきである。	評価基準のうち目標に満たない見込みのものは入館者数のみであること、入館者数をほかの基準より重視して評価するという方針は明示していないことから、評価については A 評価とする。次年度以降の事業では、経営資源の効果的配分を念頭におくこととする。	所管課と指定管理者との協議において、次年度は経営資源の効果的配分を念頭において事業実施を行うことを確認した。